

かけ橋

まだ見ぬ君へ…



△元吉原小では、給食用の牛乳パックを回収しています

生徒会が牛乳パックを

十月十七日、吉原二中では生徒会が中心になって、牛乳パックの回収を行いました。これは生徒会が、市内の小中学校の中にPTAなどが牛乳パックの回収をしているところがある、という話を聞いて企画。朝礼などを利用して全校生徒に呼びかけました。

この日、生徒たちが家庭から持ち寄った牛乳パックは、生徒会の役員によって段ボール箱の中に整然と積み重ねられていきました。集まった牛乳パックは、約五百箱。市内の製紙会社へ持ち込み、買い取ってもらいます。その

皆さん、毎日牛乳を飲んでますか。カルシウムを多くとるには、牛乳を飲むことが一番。・・・とは言っても今回は「健康のために牛乳を」というお知らせではありません。

実は、その牛乳の入れ物について。今ではほとんどが紙パックになっていきますが、この紙パックは貴重な資源。トイレットペーパーなどの原料として立派に役立ちます。

今回は、牛乳パックのリサイクルに取り組む教育現場からリポートします。

元吉原小や富士南小では、給食用の牛乳パックを回収しています。給食の後、子供たちは牛乳パックを広げ、きれいに保管し、その牛乳パックがたまると、業者が回収にやってきます。

牛乳パックの回収は、市内のスーパーや生活協同組合などでも行っています。牛乳パックは、ごみ箱へ捨てず、ちよつと手間をかけるだけで、簡単にリサイクルできるのです。

もつと広げよう リサイクルの輪

収益は、体育大会のときに設ける敬老席の接待費や、在校生から卒業生への卒業記念品代として活用されるそうです。

生徒会長の田中景子さんは、「以前から、アルミ缶の回収は行っていました。牛乳パックは初めて。資源の再利用は、とてもいいことだと思います。学校の生徒だけでなく、回収の日には近所の人も持ってきてくれるなど、リサイクルの輪が地域全体に広がったら、一番うれしいです」とこりり笑って話してくれました。



△吉原二中では、生徒会が中心になり、牛乳パックの回収を始めました



△丸火自然公園へ遊びに来た原田幼稚園の子供たち

「丸火自然公園」

今がしゃん!
見ぐる
食べぐる

「〇心と秋の空」と言うだけあって、秋は天気の変わりやすい時期だとか。しかし、やっぱり天気の良い日は、だれしも行楽地などへ出かけて、ゆつくり羽を伸ばしたいもの。そこで今回は、気軽に自然と親しむことのできる「丸火自然公園」を紹介します。

「丸火自然公園」は、自然にできた雑木林を、なるべくそのままの状態を整備し、管理されています。そのため、いろいろな樹木や四季の草花、虫、鳥などの宝庫になっています。

また、自然を利用したオリエンテーリングなども盛んです。スウェーデンから来日したオリエンテーリングの第一人者、オーギュスト・シンドラーさんは、「丸火自然公園は、森林を中心としたヨーロッパスタイルのゲレンデで、世界でもトップレベルだ」と称賛したほどです。

ほかには、自然観察コースや「沢登り」などもあります。沢には、大きな岩や高いがけ、丸木橋などがあり、変化に富んでいて、とても楽しめます。

さわやかな秋の一日。家族や友達と、お弁当を持って出かけてみてはいかが。

